

21 加工・業務用野菜生産基盤強化事業

【2,000(1,000)百万円】

対策のポイント

加工・業務用野菜への転換を推進する産地に対し、加工・業務用野菜の安定生産に必要な作柄安定技術の導入を支援します。

<背景/課題>

- ・近年、異常気象や連作障害により野菜の作柄が不安定となる中、加工・業務用野菜の輸入が増加する状況にあります。
- ・このため、輸入野菜からのシェア奪還に向け、これまでの生鮮野菜産地等が加工・業務用への作付転換を進めるとともに、異常気象や連作障害に対処し安定的に供給できるような作柄安定技術の導入が喫緊の課題となっています。

政策目標

加工・業務用指定野菜の出荷量の増加

(81万5千ト(平成20年度)→132万7千ト(平成32年度))

<主な内容>

輸入野菜からのシェア奪還に向け、加工・業務用野菜への転換を推進する産地を対象に、加工・業務用野菜の安定供給に必要な土壌・土層改良、被覆資材の使用等の作柄安定技術を導入する場合に3年間支援する対策を引き続き実施します。

平成27年度は、輸入動向等を鑑み、現行の5品目(※)に加え、かぼちゃ、レタスを対象とします。

※ キャベツ、たまねぎ、にんじん、ねぎ、ほうれんそう

(支援額：7万円/10a(1年目)、5万円/10a(2年目)、3万円/10a(3年目))

補助率：定額
交付先：(独)農畜産業振興機構
事業実施主体：農業者団体等

[お問い合わせ先：生産局園芸作物課 (03-3502-5961)]

加工・業務用野菜の出荷増加に向けて

加工・業務用野菜生産基盤強化事業（拡充）

平成27年度予算概算要求額：2,000（1,000）百万円

【支援内容】加工・業務用野菜への作付転換を推進するため、作柄安定技術を導入する場合に、当該経費の相当額の一部を定額の面積払により支援。

・土壌・土層改良の実施、マルチ・べたがけ等の資材の使用、病虫害防除資材の導入 等

【対象産地】加工・業務用対応のための生産・流通の構造改革を図る産地

【対象品目】キャベツ、たまねぎ、にんじん、ねぎ、ほうれんそう、かぼちゃ^(※)、レタス^(※)
(※)27年度から追加

・加工・業務用専用ほ場の設定、実需者との事前契約、加工用品種の導入、機械化一貫体系によるコスト削減 等

【産地の収益改善のイメージ(たまねぎの例)】

単位(万円/10a)	販売収入①	コスト②	収益①-②	その他
生鮮たまねぎ	40	34	6	
<従来>加工たまねぎ	28	27	1	調製・選別作業なし

↓ 作柄安定技術・専用機械の導入（初年度7万円/10a）

(構造改革3年後) 加工たまねぎ	34	24	10	単収2割アップ コスト1割削減
---------------------	----	----	----	--------------------

産地での導入イメージ

◆ たまねぎ（北海道畑作地帯）のケース

【産地の課題】

- ・近年の異常気象で加工たまねぎを安定供給できず中国産を中心に輸入急増。
- ・輸入品からのシェア奪還に向け、異常気象下での作柄安定と産地の構造改革が喫緊の課題。

【産地の対応】

- ・播種前契約の導入を通じて出荷量を確保するとともに、大型コンテナを利用した契約ほ場からの無選別品の出荷を進め、流通コスト等を大幅に削減。
- ・作柄安定のための技術を早急に導入し、単収の向上を図る。

大型ハーベスターでの収穫



大型コンテナでの貯蔵



加工・業務用を中心に輸入が急増しているたまねぎについて、国産シェアの回復を図り、国産野菜の利用拡大に資する。

◆ ほうれんそう（九州葉たばこ産地等）のケース

【産地の課題】

- ・口蹄疫復興、葉たばこの転換対策が喫緊の課題。
- ・国内産地と競合しないよう、輸入割合の高い加工・業務用への進出が必要。

【産地の対応】

- ・全国有数の加工ほうれんそう専用産地を形成（H22：0ha→H24：180ha）しつつ、バリューチェーンの核となる冷凍野菜工場を整備。
- ・加工適性のある品種を選定し、大型収穫機の導入等により省力化を実現。

一斉収穫を可能とした収穫機



加工用に栽培したほうれんそう



輸入が8割を占める冷凍ほうれんそう分野に進出し、輸入品からの置換えを図り、国産野菜の利用拡大に資する。また、産地での加工に取り組むことで、バリューチェーンの構築とともに、高品質な冷凍ほうれんそうの輸出も視野。